

こ 骨盤位 飛行機にのるようなもの

《骨盤位分娩》

「胎の子が逆さにねむる大暑かな」(中山純子)という俳句があります。身重の女性に夏の暑さは応えるであろうが、胎児は順調に育っているようだ、という意味でしょうか。この句は、胎児は逆さ、すなわち頭を下にしているのが正しいという産科の原則を踏まえています。反対に胎児の頭が上にあるお尻や足が下にある状態が骨盤位です。

骨盤位は全分娩の4~5%にみられるとされ、当院でも12215例の単胎分娩中、503例で4.1%でした。頭が下の通常の分娩(頭位)では、赤ちゃんの大きい頭からゆっくり下がってきて、頭さえ出ればあとの体はするっと出ます。骨盤位では、お尻から出たあとに最大の頭が一気に出なければならず、その際に引っかかってダメージを受ける可能性があることが問題です。その危険性は1%程度なのですが、児の安全性が強く求められる現代のお産では骨盤位の大多数が無難な帝王切開となっています。しかし日本には、∞の形を描くように胎児を回旋させ、かつ捻りつつ牽引する「横八の字法」という優秀な逆子の娩出方法が普及している「文化」があります。100回に1回のために99回の帝王切開をするのは妊婦さんの体も考えると惜しい気はします。

骨盤位を帝王切開するのと経膈分娩とするのは、車または飛行機に乗ることの關係に似ています。車よりも飛行機の方が安全と頭では分かっていますが、万一事故だと即アウトなので、何となく飛行機に乗る方が身構えてしまいます。帝王切開は異常が起きても対応の仕様がありますが、経膈分娩で頭が引っかかったら即アウトになりそうで心配ということです。こうした感覚的な理由に加え、予定の帝王切開ならば夜中に起こされることもなく、しかも診療報酬も経膈分娩よりも高いときていますから、骨盤位の経膈分娩は今後ほとんどなくなっていくかもしれません。当院でも先の503例の骨盤位で経膈分娩したのはわずか29例でわずか5.8%でした。

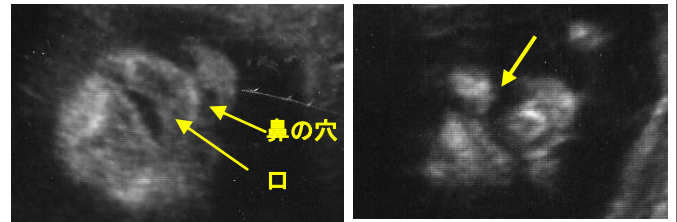
骨盤位で帝王切開を回避する方法は他にもあります。外回転術です。これは妊娠36週頃に妊婦さんのお腹の上から胎児を回転(通常前廻り)させて逆子を直す方法です。成功率は初産婦で約50%、経産婦で約70%、米国産婦人科学会でも推奨されています。外回転術の際には、胎児にいつも「いいかい、ちゃんとお辞儀するんだよ」と言いかけさせます。するとお尻を軽く持ち上げただけで実に素直に頭を下にしてくれます。何か胎児に気持ちに通じ友達になれたように感じています。



え エコー見るのに適してる8か月

《産科のエコー》

外来の妊婦健診にも夫同伴の方が増えています。しかし、エコーで赤ちゃんの顔をお見せした時、妊婦さんや一緒に来た上のお姉ちゃんなどは、「あ、顔だ」とすぐ分かって下さいますが、ご主人は「えっ、どれが?」となる場合が多々あります。男性は左脳型といわれ、「図」の認識は得意ですが、赤ちゃんの顔のような「絵」の理解は右脳型である女性の方が得意なのかも知れません。そればかりか妊婦さんは「顔が上の子に似ている」などと深読みされる方さえいらっしゃいます。私たちは顔に異常がないかは診ますが(写真左は正常、右は上



唇が切れて口唇裂と分かる)顔の個性までは分かりません。

そんな「絵」の苦手なご主人にアドバイスです。もしエコーを1回くらいはご覧になりたいのであれば、妊娠8カ月すなわち28週から31週頃がおすすめです。この時期ですと赤ちゃんの顔かたちもかなりくつきりしてきますし、赤ちゃんを包む羊水も多くコントラストがはっきりして見えやすいのです。あまり早期ですと顔が宇宙人のようで、可愛いというよりこわいという感じになります。逆に妊娠末期になりますと、頭が骨盤内に下がり羊水も減ってきますので、ビジュアル的にはつまらなくなります(もちろん医学的には重要な内容が多いのですが)。

産科医は妊婦健診の際のエコーでおおよその4つの項目を診ています。1つ目は胎児の向きと大きさです。ちゃんと頭が下である(逆子でない)ことを確認し、推定体重を計算して週数相当に成長しているか診断します。2つ目は胎児の形態異常の有無です。水頭症など頭の異常、心臓・肺など胸部の異常、腸や腎臓・膀胱など腹部の異常の有無などを観察します。3つ目は胎児の元気さです。胎児の動き、呼吸をするような運動、羊水量(体調が悪いと尿量が減って羊水が減少)や臍の緒などを流れる血流の変化から、胎児の元気さを確認します。4つ目に、胎盤の位置やへその緒の付き方、臍帯巻絡、また子宮筋腫などが合併する場合はそれらも観察します。場合によっては、経膈のエコーで、早産につながる子宮頸管長の短縮の有無や、前置胎盤の詳細な観察もします。

最近では3Dエコーも普及し、写真のように赤ちゃんの顔もかなりリアルに写せるようになりました。ご主人もぜひ妊娠8カ月頃に一度健診に同伴して、わが子のイメージを膨らませてください。

